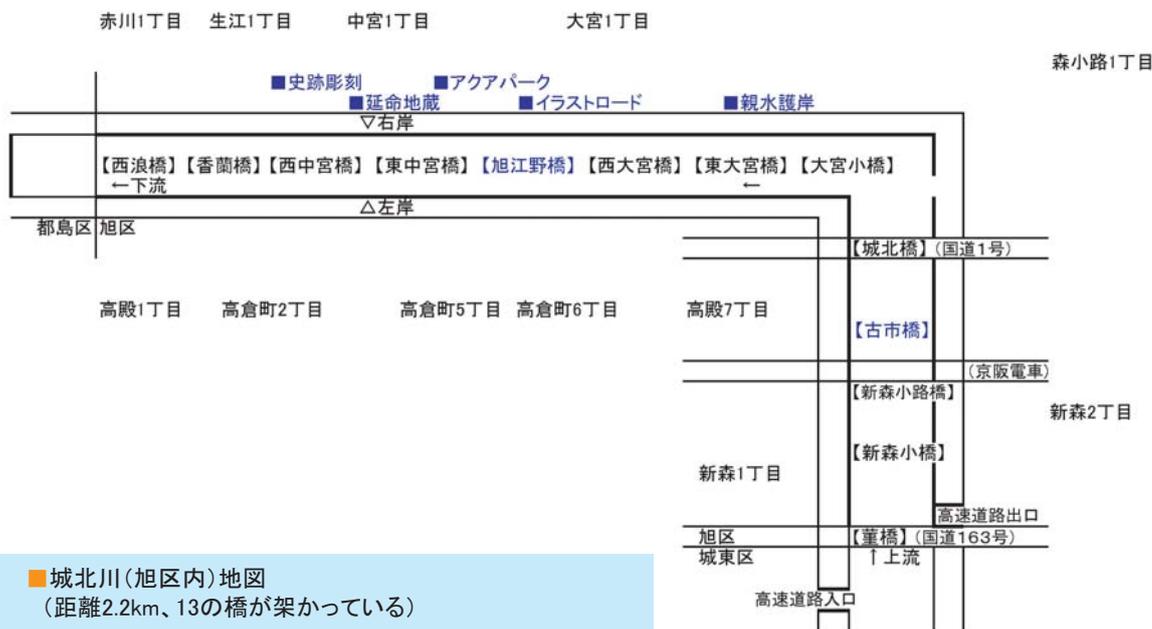


城北川の上流から下流まで歩きました。

元気な人びと、小さな動物、青々とした樹木に出会い、そして川岸の名所を発見しました。旭区内を中心に紹介します。



夏の朝、国道163号の「葦橋」をスタートし、赤川町の「西浪橋」まで、往復約4.4kmの道のりは、40分ほどかかりました。万歩計の数字も、7,500歩を超えていました。

おしゃれな白髪のお年寄りに会いました。とてもお元気そうでした。出勤前の30代若いカップルに会いました。輝く笑顔がすてきでした。小さなリュックを背負った、ウォーキングラリーのグループに『おはよう!』と挨拶しました。

ジョギング・コースの標識も、各ポイントに立っています。1000mから2500mまでの全6コース。スポーツ少年からアスリートまで、健脚を競っていました。

道すがら、水辺に遊び、川を愛する場所や場面を見つけました。

城北川のビューポイントです。

東大宮橋-旭江野橋約150mの「イラスト・ロード」



旭区の花、菖蒲の花弁をイメージした噴水と流れる滝があり、アクアパークとして憩いの場として最適です。

市立大宮第二保育所に隣接する遊歩道には、ピエロ・キリン・とんぼ・月・星など…可愛いイラストが画かれています。

旭区民センター附近「アクアパーク」



中宮橋右岸の「延命地蔵」



東、西中宮橋の護岸壁面約100mに「旭区史跡巡り」の壁面彫刻があります。城北菖蒲園・京街道・平田の渡し跡…など、みごとな作品群です。

東中宮橋たもとに「延命地蔵尊」が祀られています。城北川の守る安全祈願に手をあわせる人を見かけました。

東中宮橋～西中宮橋「旭区史跡彫刻壁画」



また城北川を散策しますと、たくさんの橋に出会います。その数、全29橋梁。旭区には13の橋が架かっていますが、そのうち2つの名橋をご紹介します。

旧街道に架かる懐かしい橋「古市橋」



文六年間(1592～1597)、豊臣秀吉の命によりつくられた大阪城の京橋から京に至る「京街道」にかかる橋です。いまの橋は、城北運河の開削と合わせて、昭和12年(1937)に架設されました。長さ約41m、幅7.3m。江戸時代の参勤交代や幕末の乱で敗れた武士に思いを馳せながら渡りましょう。

遊歩道と調和する優美な曲線「旭江野橋」



中宮1丁目と高殿5丁目をむすんでいます。遊歩道との調和し、女性的で優美な曲線が特長です。長さ約37m、幅3m。昭和51年(1976)に完成しました。旭区では菅原城北大橋、豊里大橋とあわせて、3名橋といわれています。

城北川を生きものの楽園、パラダイスにしましょう。

親水護岸や橋の袂から釣り糸を垂れている太公望に、よく会います。どんな魚がいるのでしょうか。ブルーギル・ブラックバス・コイなどがいるそうです。でも私は、釣れた瞬間を見たことがありません。



蒼鷺の姿を見ました。中葦橋の欄干に飛来して、釣り人たちの捕獲を狙っているそうです。名まえは「アオサギ」。全長90cm、翼を広げると160cm以上。クォーツと叫びながら、青い空へ飛翔していきました。このほか、城北川にはカルガモ・キジバト・ムクドリ・ヒヨドリなども生息しているそうです。

■城北川に生息するアオサギ(写真:大阪市立環境学習センター)